

雪氷研究大会 (2010・仙台) に関するアンケート調査の結果について

1. はじめに

2010 年 9 月 26 日～29 日に雪氷研究大会 (2010・仙台) が (社)日本雪氷学会と日本雪工学会の合同で開催された。実行委員会では、両学会による合同開催に至るまでの実績を踏まえ (大槻, 2006; 石井ら, 2007; 佐藤, 2007; 島田ら, 2008; 成田ら, 2009; 成田, 2009; 伊東, 2010), 今後の本大会の運営方向を定めるため, 参加者の意見を求めるアンケートを実施した。

今回のアンケートの設問は, 前回の札幌大会のものを参考にし, 新たに本大会の名称についても伺った。回収枚数は 81 枚で, そのうち 7 枚は大会終了後に送付された。以下にその概要を報告する。なお, 回答率は, 選択数/81×100 (%) で求めた。また, 日本雪工学会を「雪工学会」, (社)日本雪氷学会を「雪氷学会」と略記する。

2. 調査結果

2.1 回答者の属性

まず回答者の属性に関する結果を示す。残念ながら雪工学会だけの所属の回答者が少なく, 雪工学会全体の意見を反映しているとは言い難い面もある。そこで, 少数意見も汲み上げるために, 各回答の中にあつたコメントをできるだけ取り入れることにした。

所属学会は, 雪氷学会のみが 62%, 雪工学会のみが 5%, 両学会所属が 19% であつた (表 1)。

勤務先は, 大学・公立研究機関が最も多いが, 民間・コンサルタント等企業と行政関連機関を併せるとこれとほぼ同数となる (表 2)。

表 1 所属学会

1. 所属学会	回答率%
A. 日本雪氷学会	62
B. 日本雪工学会	5
C. AとB両方に所属	19
D. その他	10
E. 無回答	5

表 2 勤務先

2. 勤務先	回答率%
A. 大学・公立研究機関	44
B. 民間・コンサル等企業	32
C. 行政関連組織	9
D. 学生	7
E. その他	7

表 3 勤務先の地域

3. 勤務先の地域	回答率%
A. 北海道	36
B. 東北	16
C. 北陸・信越	20
D. 関東	19
E. 東海・近畿	7
F. 中国・四国・九州	1
E. 無回答	1

表 4 年齢層

4. 年齢層	回答率%
B. 20代	12
C. 30代	22
D. 40代	28
E. 50代	16
F. 60代	19
G. 70歳以上	2

勤務先の地域は北海道が多い。これは参加者が多いばかりでなく, アンケートに積極的に答えていただいたからではないか (表 3)。この点では東北が少ない。

年齢層では, 40 代が最も多いが, 20 代から 60 代までほぼ均等に分散している (表 4)。

2.2 仙台大会の感想

(1) 大会の名称

大会の名称については, ‘このままでよい’ がほとんどであつた (図 1)。しかし, 賛否を示さずに意見を示した回答もあつた (意見あり)。例えば,

1) 現在の名称, 開催年, 開催地の順序を変えた方

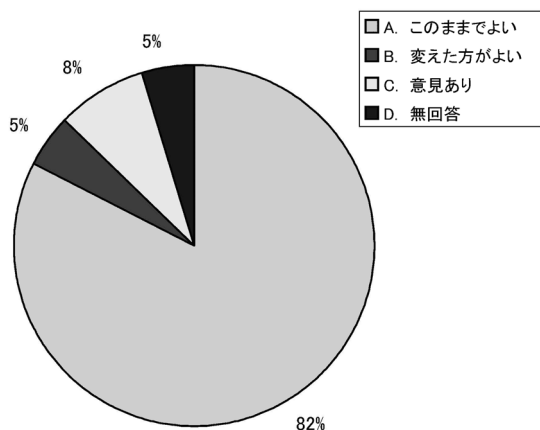


図 1 大会名称について

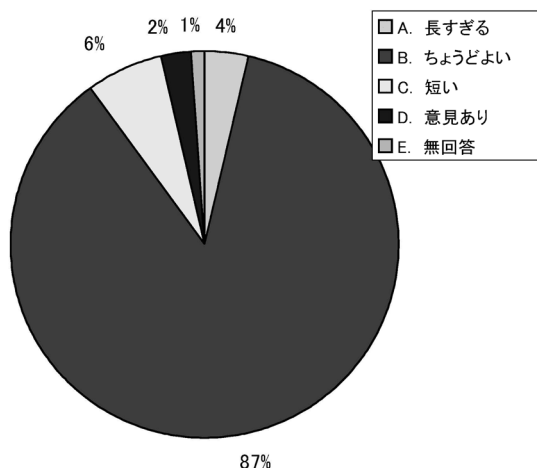


図 3 会期について

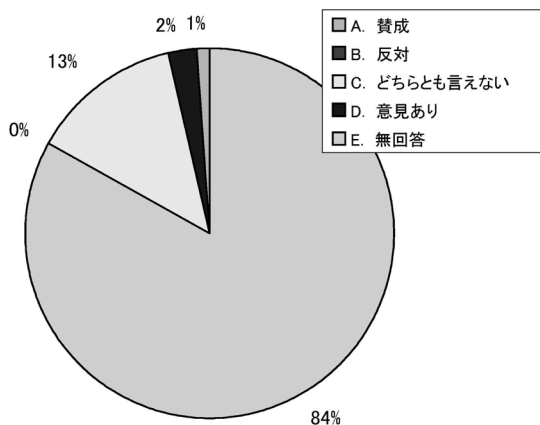


図 2 両学会合同形式について

がよい, 2) 開催場所の記載は不要, 3) 雪氷学会・雪工学会併記で2学会の大会であることを明示した方がよい, 4) 名称をみると雪氷学会だけの研究大会という印象を受ける, 5) 過去3回実施してきた実績を変えることは出来ない, などがあった。

(2) 研究発表のセッションや講演要旨集の形式

両学会合同としていることに対しては, 反対を表明する回答は無かった(図2)。意見としては, 1) 一度にたくさんの話が聞けるのでこの形式が良い, 2) 2007年の富山大会のように, 「同時期開催一部合同」形式が良かった, があった。

(3) 会期

3日間とした会期については, ‘ちょうどよい’がほとんどを占めた(図3)。意見としては, 1) 聞きたい部門がバラけていて余計な日数を要してい

る, 2) うまく3日に分かれておらず少し長く感じる, 前泊・後泊不要の日程になると助かる, 3) 会場が3つに分かれていて聞けない発表が多すぎる, があった。

(4) 経費

大会参加費, 講演要旨集代, 懇親会費ともに, 適当という回答が大半を占めた(図4)。しかし, 中には高いという回答が12~25%あり, 安いという回答はなかった。

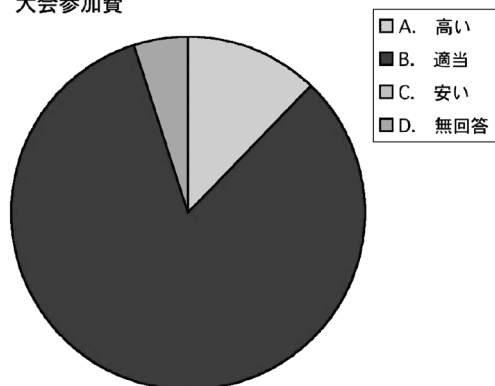
(5) 講演要旨集

品質(印刷, 紙質)については, 適当が約3/4を占めた(図5)。貧弱は無く, 上等すぎるが14%であった。意見としては, 1) 紙質を工夫して軽くして欲しい, 2) 紙だけでなくDVDかCD-ROMでも提供してほしい, があった。論述スペースについては, やはり適当が約3/4を占めた(図6)。意見としては, 1) 講演のさわりしか残らない, 2) A4, 1ページで充分だと思うがフォントが小さく記載量が多くなりがち, 3) フォントを大きくしてほしい, 4) 博士等の肩書きは不要(長くて書けない), 5) 論文集ではないので, 簡略化して発表のバリアを下げ, より多くの参加を目指すべき, などがあった。

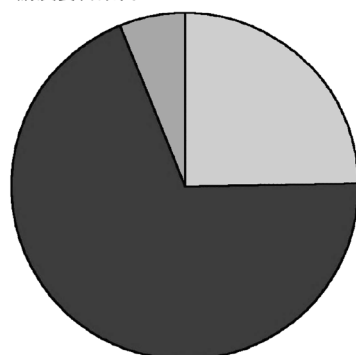
(6) 懇親会

‘満足である’がほぼ半数ある一方, 無回答も多い(図7)。これは懇親会の始まる前に記入したためかも知れない。意見としては, 1) 二次会を行うことが多いのでもっと簡素にしてもよい, 2) 料理

大会参加費



講演要旨集代



懇親会費

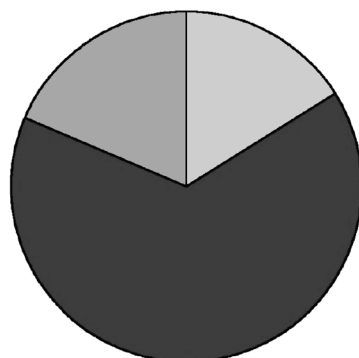


図 4 経費について

を多くして欲しい, 3) 近年の大会では, 最も良い懇親会だった, とそれぞれ受けた印象が異なっていた。

3. まとめ

本大会に関する感想を自由に記載する欄の意見を以下にとりまとめて示す。なお, この他に本大会の実行委員会に対して感謝の意を表明するものも多数寄せられた。

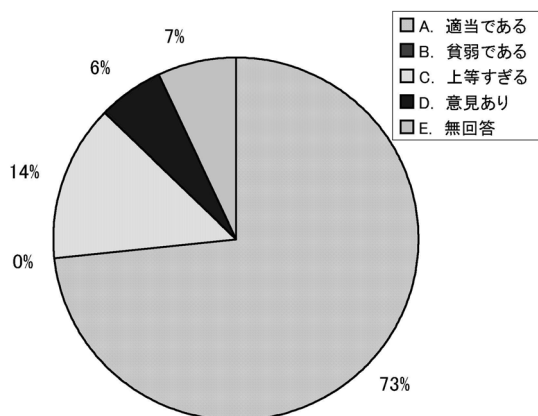


図 5 講演要旨集の品質について

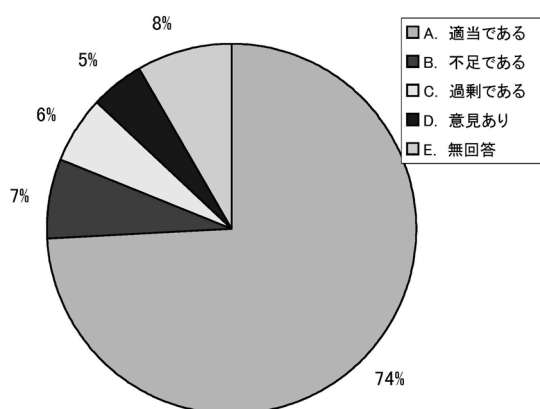


図 6 講演要旨集のスペースについて

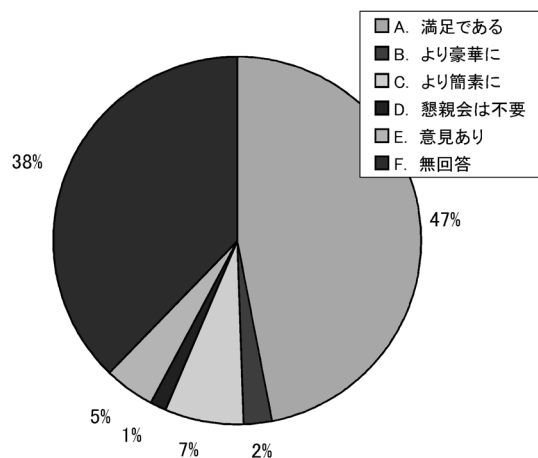


図 7 懇親会について

1) セッションの配分がよかった。参加したいセッションが重複しなかった。セッションの開始時刻や並列セッション数、ポスター展示の方法、時間割り当てなど、余裕があってじっくり聴講できた。企画セッションよりも本来の研究発表を充実させてほしい。鉄道分野のセッションを復活させてほしい。研究発表が雪氷学会、雪工学会の両学会ではほぼ完全に融合し、合同大会のメリットを大いに感ずる。

2) 発表会場のプロジェクターの色写りが悪かったので、事前のチェックが必要である。スクリーンが小さかった。発表や質問が聞き取れなかったので、きちんとマイクを使ってほしい。パソコンは、事務局で用意するのと持ち込みと両方用意してほしい。コンピュータウィルスについても、用意したパソコンにウィルス対策をしておけばリスクを下げられると思う。

3) 技術展示とポスターが同会場で、人の流れもよかった。技術展示が充実していた。要旨集の広告スペースが削られたので、今後は複数の人員でチェックしたほうが良い。

4) 一般会員に対しても発表プログラムの決定を大会ウェブサイトで公開するとのアナウンスがあるとよかった。要旨集に発表者 index があるとうれしい。

以上のように、本大会は概ね好意的に受け取ら

れたようであるが、今後検討すべき課題も指摘された。

最後になりましたが、貴重な時間を割いてアンケートにご回答いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 石井昭浩・本谷 研・力石國雄・沼野夏生・早川典生・小杉健二, 2007: 2006 年度日本雪氷学会全国大会報告. 雪氷, **69**, 312-317.
 - 2) 伊東靖彦, 2010: 雪氷研究大会 (2009・札幌) の開催報告. 雪氷, **72**, 71-74.
 - 3) 成田秀明・山口 一・半貫敏夫, 2009: 雪氷研究大会 (2008・東京) 報告 (2008 年度日本雪氷学会全国大会報告). 雪氷, **71**, 40-45.
 - 4) 成田秀明, 2009: 雪氷研究大会 (2008・東京) に関するアンケート調査結果. 雪氷, **71**, 45-48.
 - 5) 佐藤 威, 2007: 雪氷研究秋田大会におけるアンケート調査の結果から. 雪氷, **69**, 318-321.
 - 6) 島田亙・川田邦夫・飯田 肇・石坂雅昭, 2008: 2007 年度日本雪氷学会全国大会報告. 雪氷, **70**, 55-59.
 - 7) 大槻政哉, 2006: 2005 年度日本雪氷学会全国大会報告. 雪氷, **68**, 71-76.
- (防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所
阿部 修)
(2010 年 11 月 26 日受付)